

教科等名：音楽
グループ：中学部 II コース

事例報告者：教員C

1 研究グループの概要

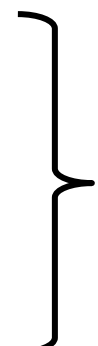
[教員] 9名

小学部 5名

中学部 2名

高等部 2名

音楽専科 2名



[対象] 中学部Ⅱコース音楽

生徒 3名、教員 3名

2 事例研究の経過

①実態把握

②授業実践

③学習の様子

④考察、授業改善

実態把握① 1 学期



| 指導者 | コース | IIコース | | | Iコース | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---------------------------------|-------|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 小A | 中A | 高A | 小低 | | | 小中 | | | 小高 | | | 中 | | | 高 | | |
| | | | | | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G |
| CT 免許 音楽専科 | | 非公開 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ST数 | | 非公開 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童生徒 | 児生数 | 5 | 3 | 3 | 6 | 6 | 7 | 6 | 8 | 6 | 9 | 8 | / | 9 | 8 | / | 16 | 14 | / |
| 国語の 段階 | 集団の上位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | / | 中1 | 小3 | / | 高1 | 小3 | / |
| | 集団の下位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小3 | 小1 | / | 中1 | 小1 | / |
| 数学の 段階 | 集団の上位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | / | 中1 | 小3 | / | 高2 | 小3 | / |
| | 集団の下位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小2 | 小1 | / | 小2 | 小1 | / |
| 単元1 | 【音楽遊び】(歌唱に向けて) 目標の段階 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小1 | / | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小1 | / | / | / | / | / |
| 単元2 | 【音楽遊び】(器楽に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | 小1 | / | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | / | / | / | / | / | / | / |
| 単元3 | 【音楽遊び】(音楽づくりにに向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | 小1 | / | 小1 | / | / | / | / | / | 小1 | / | / | 小1 | / | / | / | / | / |
| 単元4 | 【音楽遊び】(身体表現に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | 小1 | / | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | / | 小1 | / | / | / | / | / |
| 単元5 | A表現【歌唱】 目標の段階(上位) | / | / | / | 小2 | / | / | 小2 | / | 小2 | 小3 | 小2 | / | 小3 | 小2 | / | 高1 | 小3 | / |
| 単元6 | A表現【器楽】 目標の段階(上位) | / | 小2 | 小2 | 小2 | / | / | 小2 | / | 小2 | 小3 | 小2 | / | 小3 | / | / | 高1 | 小3 | / |
| 単元7 | A表現【音楽づくり】(小中) 目標の段階(上位) | / | 小2 | / | 小2 | / | / | 小2 | / | / | / | 小2 | / | / | 小2 | / | / | / | / |
| 単元8 | A表現【創作】(高) 目標の段階(上位) | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 単元9 | A表現【身体表現】 目標の段階(上位) | / | / | / | 小2 | / | / | 小2 | / | 小2 | 小3 | 小2 | / | 小3 | / | / | / | 小3 | / |
| 単元10 | B鑑賞【鑑賞】 目標の段階(上位) | 小1 | 小3 | 小3 | 小1 | 小1 | / | 小2 | 小1 | 小2 | 小3 | 小2 | / | / | / | / | 高1 | 小3 | / |

| コース | | IIコース | |
|-------|---------------------------------|-------|----|
| 学部 | | 中A | |
| グループ | | 中A | |
| 指導者 | CT 免許 音楽専科 | 非公開 | |
| | ST数 | 非公開 | |
| 児童生徒 | 児生数 | 3 | |
| | 国語の 段階 | 集団の上位 | 小1 |
| | | 集団の下位 | 小1 |
| | 数学の 段階 | 集団の上位 | 小1 |
| 集団の下位 | | 小1 | |
| 単元1 | 【音楽遊び】(歌唱に向けて) 目標の段階 | 小1 | |
| 単元2 | 【音楽遊び】(器楽に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | |
| 単元3 | 【音楽遊び】(音楽づくりにに向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | |
| 単元4 | 【音楽遊び】(身体表現に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | |
| 単元5 | A表現【歌唱】 目標の段階(上位) | / | |
| 単元6 | A表現【器楽】 目標の段階(上位) | 小2 | |
| 単元7 | A表現【音楽づくり】(小中) 目標の段階(上位) | 小2 | |
| 単元8 | A表現【創作】(高) 目標の段階(上位) | / | |
| 単元9 | A表現【身体表現】 目標の段階(上位) | / | |
| 単元10 | B鑑賞【鑑賞】 目標の段階(上位) | 小3 | |

実態把握① 2, 3 学期



| コース | | IIコース | | | Iコース | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---------------------------------|-------|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 学部 | | | | | 小低 | | | 小中 | | | 小高 | | | 中 | | | 高 | | | |
| グループ | | 小A | 中A | 高A | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | 1G | 2G | 3G | |
| 指導者 | CT 免許 音楽専科 | 非公開 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ST数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 児生数 | 5 | 3 | 3 | 6 | 6 | 7 | 6 | 8 | 6 | 9 | 8 | | 9 | 8 | | 16 | 14 | | |
| 児童生徒 | 国語の 段階 | 集団の上位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | | 中1 | 小3 | | 高1 | 小3 | |
| | | 集団の下位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | | | 小1 | | 中1 | 小1 | |
| | 数学の 段階 | 集団の上位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | | 中1 | 小3 | | 高2 | 小3 | |
| | | 集団の下位 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | | 小2 | 小1 | | 小2 | 小1 | |
| 単元1 | 【音楽遊び】(歌唱に向けて) 目標の段階 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | 小1 | | 小1 | 小1 | | 小1 | | | | | | | | |
| 単元2 | 【音楽遊び】(器楽に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | | | 小1 | 小1 | 小1 | | 小1 | 小1 | | 小1 | | | | | | | | |
| 単元3 | 【音楽遊び】(音楽づくりにに向けて) 目標の段階(上位) | | | | 小1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単元4 | 【音楽遊び】(身体表現に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | 小1 | | 小1 | 小1 | 小1 | | 小1 | 小1 | | 小1 | | | | | | | | |
| 単元5 | A表現【歌唱】 目標の段階(上位) | | | | 小2 | | | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | | 小3 | 小3 | | 高1 | 中1 | | |
| 単元6 | A表現【器楽】 目標の段階(上位) | | 小2 | 小2 | 小2 | | | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | | 小3 | 小3 | | 高1 | 中1 | | |
| 単元7 | A表現【音楽づくり】(小中) 目標の段階(上位) | | 小2 | 小2 | 小2 | | | 小2 | | | 小3 | | | 小3 | 小2 | | | | 中1 | |
| 単元8 | A表現【創作】(高) 目標の段階(上位) | | | | | | | | | | | | | | | | 高1 | | | |
| 単元9 | A表現【身体表現】 目標の段階(上位) | | | 小2 | 小2 | | | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | | | | 小3 | | | | |
| 単元10 | B鑑賞【鑑賞】 目標の段階(上位) | 小1 | 小2 | 小3 | 小1 | 小1 | 小1 | 小2 | 小2 | 小2 | 小3 | 小2 | | 小3 | 小3 | | 高1 | 中1 | | |

| コース | | IIコース | |
|------|---------------------------------|-------|----|
| 学部 | | 中A | |
| グループ | | | |
| 指導者 | CT 免許 音楽専科 | 非公開 | |
| | ST数 | | |
| | 児生数 | 3 | |
| 児童生徒 | 国語の 段階 | 集団の上位 | 小1 |
| | | 集団の下位 | 小1 |
| | 数学の 段階 | 集団の上位 | 小1 |
| | | 集団の下位 | 小1 |
| 単元1 | 【音楽遊び】(歌唱に向けて) 目標の段階 | 小1 | |
| 単元2 | 【音楽遊び】(器楽に向けて) 目標の段階(上位) | | |
| 単元3 | 【音楽遊び】(音楽づくりにに向けて) 目標の段階(上位) | | |
| 単元4 | 【音楽遊び】(身体表現に向けて) 目標の段階(上位) | 小1 | |
| 単元5 | A表現【歌唱】 目標の段階(上位) | | |
| 単元6 | A表現【器楽】 目標の段階(上位) | 小2 | |
| 単元7 | A表現【音楽づくり】(小中) 目標の段階(上位) | 小2 | |
| 単元8 | A表現【創作】(高) 目標の段階(上位) | | |
| 単元9 | A表現【身体表現】 目標の段階(上位) | | |
| 単元10 | B鑑賞【鑑賞】 目標の段階(上位) | 小2 | |

【グループの生徒の様子】

【生徒A】 難聴により、補聴器を装用しているため、聴覚よりも視覚から情報を得ることが多い。簡単な身振りやサインでやり取りをすることができる。

【生徒B】 音や声に反応することができる。甲高い声や明るい声色を好む。声を出したり、表情を変えたりすることができる。

【生徒C】 音や声に反応することができる。その時の体調にもよるが、苦手な音に過剰に反応することがある。

【教科名】 音楽

【単元名】 音楽遊び「オノマトペ」

【単元設定の理由】

1 単元観

- (1) 音や音楽（歌）、触れ合いを通して、
季節感や言葉のニュアンスを感じ取る。
- (2) 音や音楽、触れ合いや言葉掛けに応じる。

2 指導観

- (1) 音に反応する。
好きな感覚（音）、苦手な感覚（音）に気付く。
- (2) 言葉（オノマトペ）と音と動きのニュアンスの
一致。

【学習指導要領上の段階】 小学部 1 段階

【単元の目標】

| | |
|---|------------------------------------|
| 知 | 様々な歌を動画で視聴したり教師の歌声を聴いたりして知ることができる。 |
| 思 | 音楽を感じて体を動かしたり声を出したりすることができる。 |
| 学 | 音楽を聴いて、自分なりに楽しさや良さを見付けようとしている。 |

実践①

【本時の内容】 オノマトペを使ったふれあい遊び

【本時の目標】

| | |
|---|---|
| 知 | 感覚を伴いながら言葉のニュアンスを知ることができる。 |
| 思 | 音や音楽、声や触れ合いから感じ取ったことを体を動かしたり声を出したりして表現することができる。 |
| 学 | 音や音楽を聴いて、自分なりに楽しさや良さを見付けようとしている。 |

【授業の流れ】

- ①歌「季節の歌」「行事の歌」「やなせたかし集」
- ②触れ合い遊び「オノマトペ」
- ③楽器『小さな世界』『マクル』
- ④鑑賞「ディズニー音楽」







- ・ 音楽の授業の中で、感覚（聴覚、視覚、触覚）を刺激することで音を良く聞いてテンポや曲調の違いに気付いて快・不快の表現をすることができた。
- ・ 音が絶えないことを意識している。
- ・ 目で見て楽しめる教材を見て色の違いに気付いた。
- ・ 音楽から季節を味わう。
- ・ 歌唱、鑑賞においては、音源だけでなく、映像の選択も重視している。（デジタル音源、ノイズ多、静止画はあまり使用しない。等）
- ・ 同じ活動を繰り返し行うことで見通しがもてた。
- ・ その日の生徒のコンディションにより、全員が活動に参加することが難しい。

- 言語理解の基礎に繋がるよう意識的に言葉掛けをした。
- 感覚を刺激しながら、言葉の響きと音（音楽）を一致させる。
- 複数の中から選択することで好みを視線や表情で表現することができた。
- コミュニケーションには欠かせないオノマトペを動きを伴いながら、ニュアンスを感じ取る。
 - * 日本語は特にオノマトペが多い言語
- 体に触れる際に、部位の名前を言う。

①成果

- ・ 同じ内容に繰り返し取り組むことで、見通しをもつことができる。「いつもと同じやつ！」は、安心感につながる。
→視覚的に提示するよりも効果的と考えられる。

②課題

- ・ 1対1での活動が主なため、CTがピアノ（楽器）に入ると一人待ち時間ができてしまう。
→自分のペースやタイミングできるため、プラス面とも考えられる。
- ・ 難聴の生徒がいるので、音や音楽の扱いに悩む。

①成果

- ・ 感覚と音の一致により、ニュアンスの変化を感じ取ることができる。
- ・ 複数のもの（パターン）を提示することで、生徒の好きな感覚や音、嫌い（苦手）な感覚や音が明確に分かる。
- ・ 言葉掛け、触れ合いを通して、信頼関係を構築することができる。

②課題

- ・ 重度重複障害の生徒の「言語能力」育成とは

付箋紙法
(1回目)

【教科の力】

聞こえに課題のある児童生徒へのアプローチや効果的な指導法について

メンバー

教員C、他8名

成果（良かった点）

言葉の表す意味

オノマトペを体で表現、体験しているところが良い。

聴覚だけでなく、視覚からも情報を得られるようにしている点が良い。

反復学習

同じ内容に繰り返し取り組むことで、見通しを持ちやすくなり、積み重ねが成果につながる。

生演奏

生演奏しながらの歌は良い。

挨拶でピアノのカデンツを弾いて感覚から感じるようにしているのが良い。

学習環境整備

当たり前のように私たちが感じている“音”を意識して絶やさないようにしているということがとても良い。

少人数で、補聴器を付けていても比較的聴きやすい環境での授業が良い。

課題（解決への方策）

楽器演奏

太鼓やギターなど振動を感じやすい楽器を使用する。

自分が楽器を操作したことで「音が出ている」ことが分かるか、振動・音・操作の一致に反応はあるのか探っていく。

生徒自身が演奏するのはどうか。

身体への関わり

ふれあい遊びで苦手な部位は教師の動きを模倣する動きから少しずつ慣れていくと良い。

学習環境整備

楽器の音や言葉を聴かせたい時は、静かにして1つずつ丁寧に聞かせる。

教員の声の大きさを工夫すると良い。

付箋紙法
(1回目)

【言語活用能力】

重度重複生徒へにとっての言語能力の育成とはどういうことか。

メンバー

教員C、他8名

成果（良かった点）

提示言語

言葉のシャワーを浴びられるようにしているところが良い。

オノマトペの様に、言葉のニュアンスを直接感じ取れるようにしていること。

言葉の表す意味

体の部位を教師が声に出して言うことで、聞いたことのある言葉だと意識できるようになるのが良い。

児童の触られている部位を言うのは良い。

言葉と体の部位や動作が一致するように声を掛けているのが良い。

課題（解決への方策）

言葉の表す意味

単語とイラストを用意して、できる生徒は単語とイラストが一致できると良いのではないか。

生徒の手をとって、曲中に自分の身体に触れさせてみたり、教師と一緒に「ぐるぐる」「つつん」など行って言葉と動作、部位を関連付けたらどうか。

言語活用能力

活動を繰り返していった、「ぐるぐだよ」と言ったら笑ったなどの表出があれば、「ぐるぐる」を理解して、期待感をもったなどの評価ができる。

言語そのものの理解を促すというよりは、言葉のもつ響きやその言葉が使われる場面を捉えているようになることで、児童生徒本人の快・不快を読み取れるようになることが大きな育成に繋がるのではないか。

生徒同士の関わる活動を通してコミュニケーションを図る。

コミュニケーション

実態把握

その生徒がどのような表出手段があり、教師を介してどのようなやり取りができるのか。表出言語がなくても内言語をどれくらい獲得しているのだろうかという実態把握を再度行う。

日常生活の中で、自分の意思表示（要求を伝えるなど）の手段はどのような方法があるのかという実態把握を再度行う。

【教科の力】聞こえに課題のある児童生徒へのアプローチや効果的な指導法について

①成果

- ・ 繰り返しの活動による見通しがもてている。
- ・ 聴覚だけでなく、視覚教材も用意されている。
- ・ 体を動かしながら言語を学習している。
- ・ 音に親しめる環境が良い。

②課題への方策

- ・ 振動のある楽器を使う。
- ・ 教師の声の大きさの工夫（本生徒は70db程度）
- ・ 聞こえ方の実態把握をする。
- ・ 静かな環境で一つずつ丁寧に音を聞かせる。

【言語活用能力】 重度重複生徒へにとっての言語能力の育成とはどういうことか。

①成果

- ・言葉のシャワーが浴びられるようにしていることが効果的である。
- ・言葉と体の部位や動作が一致するように声をかけていることが良い。
- ・オノマトペは言葉のニュアンスを直接感じられるので良い。

②課題への方策

- ・単語、イラスト音声を統合的に提示する。
- ・言葉のもつ響きやその言葉を使う場面を捉えられるようにする。
- ・意志表出手段や内言語理解の実態把握を再度する。
- ・生徒同士の関わる活動を通してコミュニケーションを図る。

【教科の力】聞こえに課題のある児童生徒へのアプローチや効果的な指導法について

①改善点

- ・実態を担任と共有する。
（日常生活における実態、各授業での様子を踏まえ、実態や様子に応じて取り組み方を工夫していく。）
- ・様々な方法を試す。（動画、音源のみ、生演奏等）
- ・次々回、授業参観なので、保護者にも音楽の実態を見てもらい、参観した感想や家庭での音楽の扱い（普段聴いている曲や好む音、環境）等を聞いて今後の授業の参考にしていく。

②成果

- ・楽器の振動や響きを感じやすい場所位置に着席させることで、耳を傾けてじっと聴く様子が見られた。

③課題

- ・聞こえ方については、今後も観察及び情報共有していく必要がある。

【言語活用能力】 重度重複生徒へにとっての言語能力の育成とはどういうことか。

①改善点

- ・音、言葉、イラスト（視覚提示）など複数の手段で身に付けられるように工夫する。
- ・日常生活における実態や個別の学習の成果や課題等を担任から聞き取り、繋げていく。
- ・次々回、授業参観なので、保護者にも音楽の実態を見てもらい、参観した感想や家庭での音楽の扱い（普段聴いている曲や好む音、環境）等を聞いて今後の授業の参考にしていく。

②成果

- ・音と言葉の響きと感覚を合わせることで、生徒の反応が分かりやすく、理解度や楽しんでいる様子等が明確であった。

③課題

- ・体調や環境に左右されるので、一定期間繰り返すことが必要。
- ・観察及び情報共有を継続していく必要がある。

付箋紙法
(2回目)

【教科の力】

聞こえに課題のある児童生徒へのアプローチや効果的な指導法について

メンバー

教員C、他8名

成果（良かった点）

聴覚障害の生徒にとって、視覚的な手掛かりはわかりやすかった。

音だけでなく視覚教材も繰り返し活用されたことで注目する力や次の展開を予測する姿が見られた点良かったと思う。

楽器の振動を感じやすい座席に変更したことで、生徒の音や音源への反応に変化が見られたことが良かった。

アップライトピアノの鍵盤の下や近くで響きを感じさせることで音を感じさせてよかった。

生徒の好む場所で活動に参加したことで、響きをより感じ、集中力も続いたのではないかなと思う。

生徒を楽器の近くに寄せたことで、音源が分かりやすくなり、音への意識が高まったと思う。

楽器を近くで演奏したり、視覚提示をしたりしたことで、聞こえたり活動内容がわかりやすくなったと感じる

視覚情報

座席

反復学習

オノマトペに継続して取り組むことで、生徒が音楽の規則性に気付き、音や音楽への期待感をもつような反応が見られたこと。

課題（ステップアップを目指して）

視覚情報

視覚情報を、生徒にとってより分かりやすいものにする。分析していく。

聞こえの実態把握

どんな音が聞こえやすいのか、興味をもちやすいのか、把握して引き継いでいく。

本人にとって好みの音や苦手な音を探ること、また苦手な音へのアプローチ方法

付箋紙法 (2回目)

【言語活用能力】

重度重複生徒へにとっての言語能力の育成とはどういうことか。

メンバー

教員C、他8名

成果（良かった点）

触覚刺激

教師が触っている部位（手や指など）を口にすることで、生徒が触られている部位への気付きにつながるとPTの先生から聞きました

教師とのふれあい遊びで触れてもらうことで、触覚で感じたり、その部位について言葉で整理してもらったりすることで、言語能力の基盤になると感じた。

生活年齢を考えると、ふれあい遊びを保護者とする機会はないと思うので、授業参観で保護者と触れ合うことは違った表情を見られるいい機会だったと思う。

音と言葉

オノマトペを継続することで、言葉を知ることにつながる

音と言葉と響きから予測する反応が見られるのが良かった。そのような曲を取り入れているのも良い。

視覚情報

言葉ではないが、視覚情報を用いることで、生徒の中で情報が整理しやすくなったのではないか。

課題（ステップアップを目指して）

発信者（生徒）の実態把握

音や言葉を手がかりにした自己表現がどの程度できるのか（頭と言われて頭を触れる等）。1段階の音楽遊びとしてオノマトペ（ふれあい遊び）をしているが...音楽での自発的な表現ができるか良いかな。

受信者の課題

人間関係の深さも大事？

発信者（生徒）の経験

選んで伝わった経験を積む

身振りサインやイラストカードなどでコミュニケーションをとる経験を重ねる。

受信者（教員）の在り方

音や音楽、言葉やふれあい等を通して、生徒から出される表情や声、動きをこちらが細かく観察したり、推測していくこと。

受け取る側の感性を磨く

【教科の力】聞こえに課題のある児童生徒へのアプローチや効果的な指導法について

①成果

- ・ 楽器の振動や響きを感じやすい場所に座ることで、耳を傾けてじっと聴く様子が見られた。（ピアノの周辺にいて、響きや振動を感じることで、拒否反応の嘔吐することがなかった。）
- ・ 視覚情報を提示したことで、より注目する様子が見られた。

②課題

- ・ 聞こえの具合を明確にすることは難しく、検査結果を参考にしながらもその都度様子を観察する。
- ・ 聞こえ方について、今後も観察及び情報共有をしながら探っていく必要がある。

【言語活用能力】 重度重複生徒へにとっての言語能力の育成とはどういうことか。

①成果

- ・音と言葉の響きと感覚を合わせることで、生徒の反応が分かりやすく、理解度や楽しんでいる様子等が明確であった。
- ・視覚情報の提示が有効的であった。注目している様子が見られた。
- ・繰り返しの活動により、予測する反応が見られた。

②課題

- ・体調や環境による影響が大きいため、一定期間繰り返すことが必要となる。
- ・観察及び情報共有は継続していく必要がある。

3 成果と課題

[成果]

【音楽的能力】

・授業の流れを一定にして反復して学習することにより、活動に見通しと期待感をもつことができた。また、児童生徒の活動の様子に関する教師の見取り（評価）にも確信をもつことができた。聴覚刺激である音に加えて動きのある視覚情報を提示したり、座席位置に配慮しながら振動する楽器を使用したりすることにより、音を振動としても捉えることができ、集中して聞くことができるようになった。

【言語活用能力】

・オノマトペや身体部位（言語）と曲（音）、触覚刺激を関連させた触れ合い遊びを通して、快、不快や興味の有無を表情や発声、身体の動きで表現することができた。音楽の特徴であるリズムや曲調と言語を関連付けることは有効であった。

【研究仮説の検証】

・本実践を通して、生徒は快、不快や興味の有無を表情や声、身体の動きで表現することができた。内在する思いを外界へ表現し、それが他者に伝わり、他者からの反応が再び自分に向けられることは、言語活用能力の基盤となる力を育むこととなり、人間関係やコミュニケーションの伸長に繋がった。

【課題】 生徒の実態差、単元設定の難しさ（Ⅰ、Ⅱコースのちがい）

【音楽的能力】

・ 生徒の実態を再度検証しながら、さらに生徒の主体的な学びにつながるように題材選定を工夫した上で、必要な教材教具（視覚情報など）の精査を行い、また、生徒の実態を踏まえた苦手な音への対応方法を探る。

【言語活用能力】

・ 重度重複生徒は表出手段が微細であったり不確実であったりする。生徒が伝わる経験を重ね、自発的な表出が増えるように教師は実態把握を継続的に行い、提示する情報や言葉掛けの精査に努めていくことが必要である。

【研究仮説の検証】

・ 教師からの聴覚、視覚、触覚刺激を統合させた働き掛けを受け、生徒は快、不快、無反応を表情や声、身体の動きで表現することができた。他の場面ではどうなのかを、学級、学年、保護者等関係機関と連携しながら情報共有を図り、更なる成長を促す手段を探っていくことが必要となる。